

市史編さんだより 第14号

発行 令和5年5月31日

《市史の窓》 戦時中に設定された美囊郡報国八十八ヶ所巡拝

美囊郡報国巡拝所道順

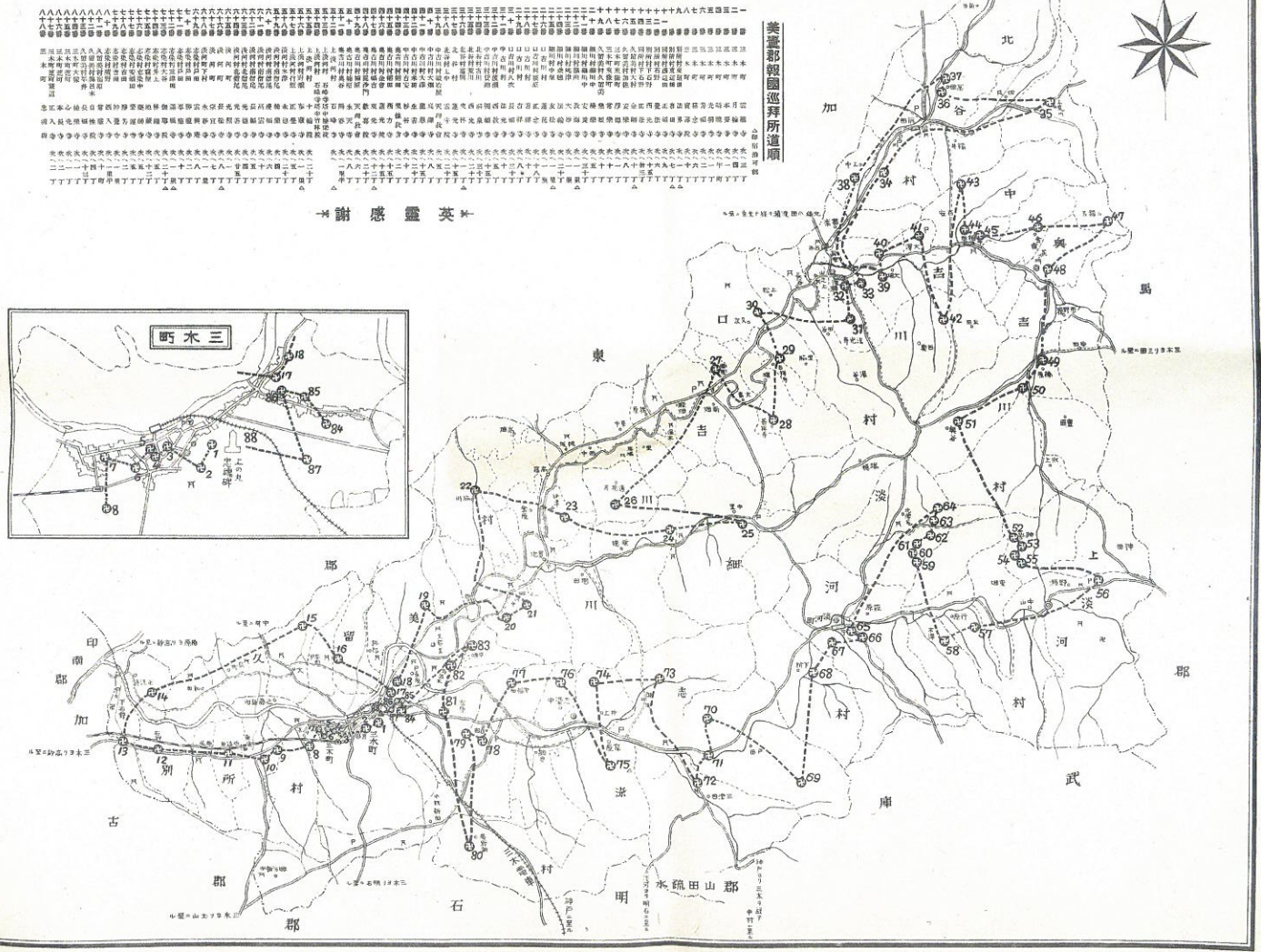


写真 美囊郡報国巡拝所道順地図 (某寺蔵)

西国三十三所、四国八十八ヶ所・・・寺社を特定数選んで、それらを巡る行為は各地で行われ、特に近世中期以降はより多くの人々の間に広まりました。こうした状況を踏まえ、近代になり「観光」という営為が浸透するにつれ、新たな寺社巡拝が行われるようになります。兵庫県下でも、隣接する加東郡では1918年に「加東郡八十八ヶ所」が、また1932年には神戸新聞社などにより「西国新三十三所推薦」が決定されています。

今回紹介する地図は、美囊郡においてもそのような

活動が行われたことを示す、貴重なものです。下記の通り宗派を超えた88の寺院等が選定されており、中には黒住教や天理教といった神道系新宗派まで含まれている点は興味深いものがあります。道順は、三木の中心地からスタートして美囊郡域を広範に移動するようになっており、宿泊可能な寺院がいくつか示されています。

調べてみますと『六大新報』という、京都市の真言宗系出版社が刊行している雑誌に記述が見つかりまし

た。同誌第 1917 号 (1941 年 4 月刊) の記事によりますと、兵庫県美囊郡^{きぬまきげんみんやう}仏教護国団という組織の衣巻^{きぬまき}頭明^{けんみょう} (のちの三木市長) が中心となり、「皇国尽忠諸英霊に回向すると共に、一般に報恩感謝の念を普及徹底」させるために企画、開催したと伝えています。遥拝所を整え巡拝地図を配布したのち、4 月 8 日には「開所総供養」を教海寺で執り行い、さらに同月 16 日からは三日間「遥拝所開設参拝」が行われる予定だといひます。

1920、30 年代に一般化し始めていた観光は、戦時下になると「厚生運動」の一環と称して心身鍛錬や団体行動の訓練といった名目を掲げ、1942 年に至るまで盛んに繰り広げられていました。広く郷土を巡り寺社に参拝すること、忠魂碑を目指すことや「英霊感謝」の文言から、戦時体制に即したイベントであったことが読み取れます。本史料は、近代における「観光」の進展や、それが帯びる複雑な性質を示しています。(吉田)

美囊郡報国巡拝所一覽

△印宿泊可能 (当時)

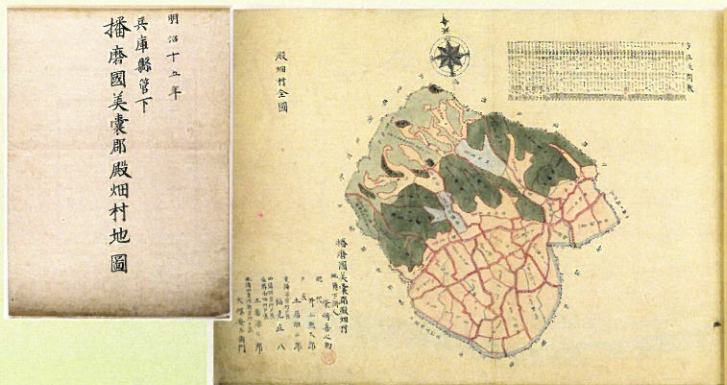
- | | | |
|----------------------|----------------------|-------------------------------------|
| (1) 雲龍寺 (三木町) | (32) 西教寺 (中吉川村・渡瀬) | (63) 光徳寺 (淡河村・北僧尾) |
| (2) 月輪寺 (三木町) | (33) 圓福寺 (中吉川村・貸潮) | (64) 光善寺 (淡河村・北僧尾) |
| (3) 本要寺 (三木町) | (34) 洞泉寺 (北谷村・古川) | (65) 光照寺 ((淡河村・) 淡河町) |
| (4) 晴龍寺 (三木町) | (35) 西光寺 (北谷村・荒川) | (66) 長松寺 ((淡河村・) 淡河町) △ |
| (5) 光明寺 (三木町) | (36) 東林寺 (北谷村・富岡) △ | (67) 宗宣寺 ((淡河村・) 淡河町) |
| (6) 善福寺 (三木町) | (37) 蓮光寺 (北谷村) | (68) 永春寺 (淡河町・下村) ^(村ノ誤リ) |
| (7) 稱念寺 (三木町) | (38) 雲守院 (北谷村・上中) | (69) 雲興庵 (志染村・戸田) |
| (8) 寶壽院 (三木町) | (39) 天理教會 (中吉川村・鍛冶屋) | (70) 勝龍寺 (志染村・戸田) |
| (9) 法界寺 (別所村・東這田) △ | (40) 高澤寺 (中吉川村・大畑) | (71) 専應寺 (志染村・戸田) |
| (10) 在田寺 (別所村・東這田) △ | (41) 龍恩寺 (中吉川村・大沢) | (72) 満願寺 (志染村・三津田) △ |
| (11) 正福寺 (別所村・西這田) | (42) 生善寺 (中吉川村・米田) | (73) 伽耶院 (志染村・大谷) △ |
| (12) 覺法寺 (別所村・石野) | (43) 杉谷寺 (中吉川村・吉安) | (74) 林鐘寺 (志染村・井上) |
| (13) 西光寺 (別所村・下石野) | (44) 黒住教會 (奥吉川村・稲田) | (75) 地藏寺 (志染村・窟屋) |
| (14) 正法寺 (別所村・下石野) | (45) 西方寺 (奥吉川村・稲田) | (76) 藥師寺 (志染村・志染中) |
| (15) 金剛寺 (久留美村・大村) △ | (46) 蓮光院 (奥吉川村・金会) | (77) 榮運寺 (志染村・安福田) |
| (16) 安樂寺 (久留美村・加佐) | (47) 東光寺 (奥吉川村・福吉) △ | (78) 淨善寺 (志染村・吉田) |
| (17) 淨徳寺 (三木町・東条町) | (48) 歡喜院 (奥吉川村・毘沙門) | (79) 妙覺寺 (志染村・吉田) |
| (18) 常樂寺 (三木町・東条町) | (49) 天理教會 (奥吉川村・楠原) | (80) 西入寺 (志染村・広野) |
| (19) 慈眼寺 (久留美村・久留美) | (50) 永天寺 (奥吉川村・楠原) | (81) 常嚴寺 (久留美村・宿原) |
| (20) 極樂寺 (細川村・細川中) | (51) 陽春寺 (奥吉川村・奥谷) | (82) 自性院 (久留美村・与呂木) |
| (21) 安養寺 (細川村・細川中) | (52) 石峰寺 (上淡河村) △ | (83) 長福寺 (久留美村・平井) |
| (22) 教海寺 (細川村・脇川) △ | (53) 石峰寺塔中極樂院 (上淡河村) | (84) 極樂寺 (三木町・大塚) |
| (23) 大雄寺 (細川村・桃津) | (54) 石峰寺塔中竹林寺 (上淡河村) | (85) 心光寺 (三木町・芝町) |
| (24) 法輪寺 (細川村・垂穂) | (55) 十輪院 (上淡河村) | (86) 本長寺 (三木町・芝町) |
| (25) 友松寺 (細川村・中里) △ | (56) 泰藏寺 (上淡河村・野瀬) △ | (87) 正入寺 (三木町・芝町新道) |
| (26) 蓮花寺 (口吉川村) | (57) 正覺寺 (上淡河村・行原) | (88) 忠魂碑 (三木町) |
| (27) 正念寺 (口吉川村・笹原) | (58) 永徳寺 (淡河村・木津) | |
| (28) 善祥寺 (口吉川村) | (59) 極樂寺 (淡河村・南僧尾) | |
| (29) 吉祥寺 (口吉川村) | (60) 慶福寺 (淡河村・南僧尾) | |
| (30) 長福寺 (口吉川村・久次) | (61) 高雲寺 (淡河村・南僧尾) | |
| (31) 法光寺 (中吉川村) | (62) 長福寺 (淡河村・南僧尾) | |

※施設名・地名は地図中の一覽の表記によりました。但し地名については旧字を新字に直しています。

地縁団体として明治時代以降に成立した地区自治会の成り立ちからみて、明治時代以降の書類こそが区有文書の根幹といえます。今回は、明治時代以降に作成された文書3点についてみていきましょう。

*

農業従事者が多い三木市域では、土地に関する書類や農業に関する書類が多くなるのはいうまでもありません。明治以降になると測量に基づいて作成した精密

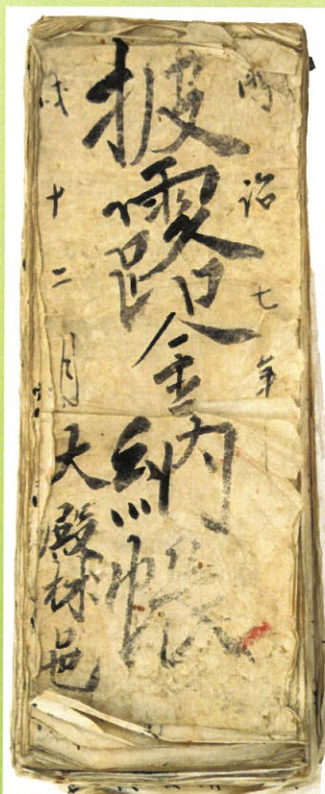


殿畑村字限図（明治15年） 左・表紙、右・村全体図

な地図が作成されるようになります。そういった地図の一つである字限図（あざきりず・じげんず）は、地租改正後に整理された土地を小字ごとに作成した図面です。ほ場整備や区画整理が進んだ現在では現用性が薄れましたが、歴史的には重要な史料となっています。

地区の会計に関わる書類も多いですが、しばしば「披露金」というものに関する帳簿がみられます。これは、地区の住民に冠婚葬祭があると、その当事者が属する家から地区へ「披露祝儀」として決められた額の金銭を納めるという慣習です。これがいつから始まったのかはわかりませんが、少なくとも明治の初めごろからの書類が残されています。納められた「披露金」は「部落有基本金」などとして貯蓄され、恐慌などの危機に際して地区住民に分配されることもありました。

三木市域の村々は低い丘陵に囲まれているところが



大殿林村披露金納帳（明治7年）

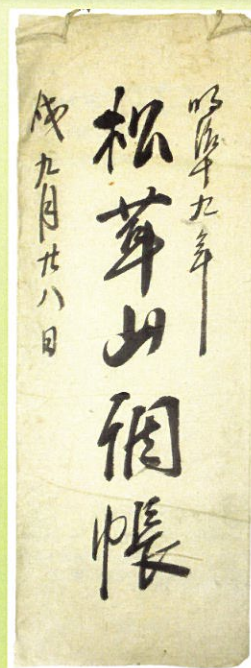
区有文書の内容の例（明治時代以降）

土地関係（土地台帳・字限図・野取帳・耕地整理・売買契約・登記簿・地租改正・地券など）、農業関係（水利・米麦作付・肥料・害虫駆除・販売など）、山林原野関係（入会・造林・伐採・開発・樹木販売・松茸など）、区財務関係（出納簿・部落経費・協議費賦課割帳・税金関係・頼母子講・「披露」など）、土木関係（道路・橋・ゴルフ場開発・高速自動車道開発など）、宗教関係（社寺取調・除地・合祀・祭礼関係・葬礼道具など）、戸口関係（戸籍簿・組合名簿・国勢調査など）、墓地関係（墓籍）、公民館関係（建設）、規約類（定書・俟約など）、戦争関係（出征・英霊帰還・復員・在郷軍人会など）、地区内団体関係（青年団・婦人会・老人会・こども会など）、雑書類綴り（役場からの通達ほか）、部落会記録（会合の記録・業務日誌・沿革誌）、村絵図（地図・青焼コピー図）、講関係（伊勢講・荒神講など）、区長引継関係（書類目録・印鑑・鍵など）

多く、かつての山にはアカマツ林が多くみられました。そこではマツタケがよくとれ、各地区は収穫から販売まで厳重に管理し、その収益は地区の住民へ公平に分配されました。区有文書には、そうしたマツタケ収穫に関する文書がみられます。

*

区有文書は、明治時代以降の（場合によっては江戸時代以前も含め）地区の歴史を跡づける唯一無二のものとして、かけがえのない地域の歴史遺産です。そのような区有文書も、区長持ち回りから公民館への保管に切り替えられたことで、その存在が忘れられることも多くなっていると考えられます。また、古い史料ほど書かれている内容が読みにくく、心理的にも遠い存在になっていることはやむをえないことかもしれません。しかし、私たち市史編さん室が区有文書調査を行うことで、地区の方々に先人達の足跡を偲び、さらには地元の良いところを再発見するきっかけにしてほしいと考えています。各地区の役員様をはじめ住民の皆様におかれましても、今日まで残されてきた先人の足跡ともいえる区有文書を大切に保管していただき、未来へ伝えていただけることを願ってやみません。



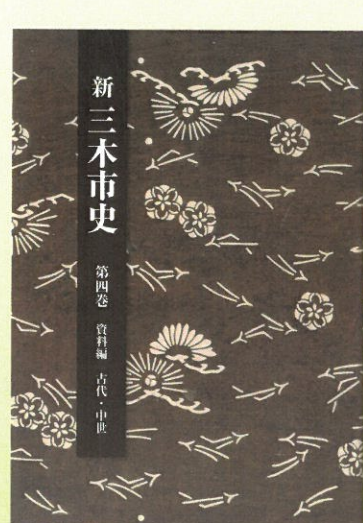
久次村松茸山調帳（明治19年）

（木村）

編さん室トピックアップ

新三木市史第4巻『資料編 古代・中世』、地域編1『三木の歴史』、同9『青山の歴史』の発刊

令和5年3月31日付で、新三木市史の配本5冊目～7冊目となる第4巻『資料編 古代・中世』、地域編1『三木の歴史』、同9『青山の歴史』を発刊いたしました。



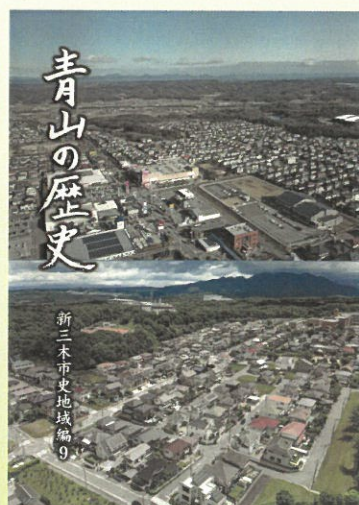
『資料編 古代・中世』は通史編としての記念すべき第1冊目の配本となります。

通史編は、《学術的水準の高い市史》というコンセプトのもと大学教員を中心とする専門研究者との連携により編さんが進められています。古代編では、「播磨国風土記」を中心に現在確認

されている市域関係の古代史料を全て網羅しています。また中世編では、市域に伝わる中世文書全てを画像とともに、またそれ以外についても可能なかぎり翻刻・解説を掲載するようにつとめました。

また地域編は、《住民参加の自治体史編さん》というコンセプトを実現するため、本の制作全般にわたり、

地域住民の方々にご参加いただいております。地域編としては5冊目、6冊目となる『三木の歴史』、『青山の歴史』も、多くの地域住民の方々のご協力のもと完成いたしました。発刊にあたり、改めてお礼申し上げます。第4巻『資料編 古代・中世』（頒価 3800 円）、



地域編1『三木の歴史』（頒価 3800 円）、同9『青山の歴史』（頒価 2500 円）は、みき歴史資料館や三木市史編さん室（資料館2F）などで購入できます。既刊の地域編6『口吉川の歴史』、同4『志染の歴史』、同7『緑が丘の歴史』、同10『吉川の歴史』も絶賛販売中です。詳しくは市史編さん室（下記）まで。

古い資料や写真を探しています！

皆さんのお近くにある古い記録類は、地域の歴史を物語る大切な歴史遺産です。下記のような資料の情報をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご一報ください！

- ◆くずした文字で書かれた帳面や一枚ものの文書などの古文書
- ◆和紙に書かれた冊子などの古い本
- ◆明治・大正・昭和の古いノートや記録（日記・手紙など）
- ◆三木市域の古い写真、絵画、映像など
- ◆自治会などの団体、地域でのグループ活動などの記録や資料
- ◆古いふすまや屏風（古文書が、下張りに使われていることがよくあります）
etc.

市民ボランティア募集中！

私たちは、市民ボランティア・メンバーとともに、市内にある文献資料を記録に残す取り組みを行なっています。現在の活動人数は約20名ですが、まだまだ募集しています。古文書が読めない方でも参加可能です。見学だけでも大歓迎です。詳しくは市史編さん室までご連絡ください。

◆開催日時：毎週水・木曜（どちらか1日の参加でもOK）13:00～15:00 / 場所：みき歴史資料館2階市史編さん室

活動内容：①古文書のデジタル撮影、②江戸時代以降のくずし字解読（翻刻作成）、③資料の修復（しわのぼし・糊づけ等）、④新聞検索（各紙から三木に関する記事を選別）、⑤古文書現物からの目録作成、⑥パソコンでの目録データ入力

市史編さんだより 第14号（令和5年5月31日発行）

編集発行：三木市総務部 市史編さん室

連絡先：〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5 みき歴史資料館2階 電話 0794-83-1120 / FAX 0794-83-1190

ホームページURL：https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/9/